

3・13ワールドピースアクション in 土浦

イラク戦争開戦1周年を迎える3月20日のワールドピースアクションに先立って、土浦では3月13日(土)午後、「イラクの現地報告」とピースウォークがおこなわれました。この集会は、70人の有志と8つの団体の呼びかけによって実現したもので、隣接自治体ばかりでなく竜ヶ崎や八郷の平和団体からの参加者の顔も見えました。つくばからは中学生の参加と発言もあり、イラク問題に対する関心の強さを示していました。

平和新聞編集長布施祐仁氏の「イラクの現地報告」は、自衛隊派遣直前のサマワとバクダットの状況をパソコンに収められた豊富な現地写真をスクリーンに映写しながら解説されました。テレビや一般新聞で見られない報告に占領下の実態を知り「現実は予想以上に厳しい」という感を強くしました。(内容は別記)

集会アピール採択の後、天神通りを“かねき本店”から大町交差点、8間通りから土浦駅前を通過して関銀から亀城プラザまで約40分のピースウォークをおこないました、参加者は約80人、パトカーの先導によるパレードはしばらくぶりのものでしたが、沿道からは手を振る人、クラクションを鳴らす車や飛び入りの参加者もある盛況でした。

布施氏の報告から

サマワからバクダットへの道は武装ゲリラの襲撃街道、占領軍の武装車両は何を標的に、絶え間なく、見えない敵に対して射撃をしている。記者の車が近づくと銃口を向けてくる。

バクダットの旧政府関係の建物は破壊し尽くされているが、石油省の建物だけは無傷のまま残っている。市内ではガソリンを補給する車が長い列を作っている。石油の豊富な国でガソリンスタンドが足りない。しかし、郊外に向かうタンクローリーの列がある。占領軍による輸出で占領軍の経費が賄われている。

市内には野菜や日用品を売る店が開かれて、日常生活は平穏に見えるが、通りで突然爆発物が通行人を恐怖に陥れる。自動装置による爆発、自爆テロが市民を巻き添えにする。占領軍の施設を狙った砲撃は数キロ遠方からのもので、目に見えない敵に脅かされている。

活動ごよみ

- 3・2 ピースアクション実行委員会 (1中地区公)
- 3・6 県平和委活動者交流会 (水戸市民会館)
- 3・9 ピースアクション実行委員会 (1中地区公)
- 3・13 ワールドピースアクション in 土浦 (亀城プラザ)
- 3・16 平和の会理事会 (神立コミセン)
- 3・20 ワールドピースアクション (芝公園、つくば)



3・13ピースウォーク in 土浦